教育センター通信

火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第１１号（通算８３号）
令和３年３月１８日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

「まずはやってみる」

小中一貫教育推進課　指導主事　荒川　高明

３月になり、様々なことがあった令和２年度がいよいよ終わりを迎えようとしています。そして、新年度への準備も始まっています。学園ごとにタブレットＰＣ端末の操作研修を行われました。先日、私もこの研修に参加しました。

研修では、タブレットＰＣ端末を活用した課題作成の仕方や宿題の出し方、リモート会議の仕方等を体験し、教育の現場が確実に変化・進化しつつあることを感じました。

「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない。」
これは、かつて日本サッカー協会に招かれたフランスの育成年代の指導者クロード・デュソーの言葉です。一見、刺激的な言葉ですが、スポーツの指導者に限らず、学校現場にとっても重要な意味をもつ言葉であると思います。

新しいことを学ぶことは、心と体に多大なエネルギーを必要とします。タブレットＰＣ端末を使い始める最初のうちは、先生方だけでなく子どもたちもストレスを感じる場面があるかもしれません。ＰＣの操作を得意に感じたり、不得意に感じたり、それぞれの感じ方があると思いますが、できることを少しずつ増やしていけば、１年後、確実な変化が見込めるのではないでしょうか。また、タブレットＰＣ端末を授業で使うことが目的ではなく、タブレットＰＣ端末を活用して授業をさらに充実させることが重要であることは、先生方も十分承知していることと思います。たとえ先生方が授業でＰＣを上手く扱えないことがあったとしても、先生方の努力や熱意は子どもたちに伝わるのではないでしょうか。先生方が「まずはやってみる」を大切にし、授業を充実したものにできるよう、私たち教育委員会も支援してまいります。

春の交通安全運動　～自転車の事故に注意を～

今年度、教育委員会に報告のあがった自転車事故は 15 件、そのうち登下校中の事故は７件でした。例年、春を迎えるこの時期に事故が増加する傾向にあります。各学校で児童生徒への指導を徹底するとともに、保護者への啓発活動をお願いいたします。

【自転車乗用時の注意事項】

① 自転車は道路交通法で「軽車両」であり、原則、車道の左側を通行する。
② 自転車通行可の歩道では、歩行者が優先で、自転車は車道寄りを徐行運転する。
③ 傘差し運転、２人乗り、並進走行、携帯電話やイヤホン等の使用運転、夜間の無灯火運転などの違反行為をしない。
④ 交差点では確実に一時停止し、安全確認を行う。信号のある交差点は信号機に従う。
⑤ 坂道では十分に減速し、スピードを出し過ぎない。
⑥ 自転車側が加害者となる場合もあることを理解し、責任ある走行を心掛ける。

ある学校の自転車通学生は、登下校時、交差点での横断歩道を渡るときに必ず自転車を降り、自転車を押しながら歩いて渡ります。その光景を見るたびに、学校での交通安全指導が徹底され、子どもたちに交通マナーが浸透していると感じ、嬉しい気持ちになります。大人のドライバーにとっても、子どもたちがマナーよく頑張っている姿を見て、自分自身の交通マナーを振り返り、交通安全に対する意識が高まる貴重な時間になっていると思います。児童生徒に、「皆さんの行動が社会全体の交通安全に貢献している」という話を折に触れしていただければと思います。

三条人のものづくりの心を学ぶ「刃物・ものづくり教育」

「金物の町・三条」という言葉は、全国に知られています。しかし、何故、そう呼ばれるようになったのかの歴史を知る人は少ないのではないでしょうか。

八木ヶ鼻の対岸の御渕上遺跡から約２万年前のナイフ型石器が、縄文時代中期の長野遺跡、吉野家遺跡からは、火焔型土器、王冠型土器をはじめとして多くの土器や土偶が出土しています。そして、大崎地区の下町遺跡からは、中世期の鋳物師の存在を裏付ける遺物が発見されており、大崎鋳物師と呼ばれる職人集団の存在が認められています。三条人のものづくりの心は、石器時代から脈々と引き継がれています。そして、石器づくり、土器づくり、近世の和釘づくりから現在に至るまで「刃物・ものづくり」技術の世界的トップランナーとしての地位を築いています。

三条で育つ子どもたちには、ぜひ、このものづくりの心を知ってもらいたいという願いから、「和釘をつくる」「小刀を使ってものをつくる」「砥石を使って包丁を研ぐ」「鋸、鉋を使って木材を切る、削る」の体験学習を設定しています。

今年度もこの四つの学習に 112 学級、児童生徒 2,862 人の参加がありました。参加した子どもたちは、「ものづくりは楽しい」「職人さんの技術は凄い」と感想を述べ、引率した教職員も「子どもたちにとって素晴らしい学びであった」「来年も続けてほしい」と記しています。

ぜひ、今後もこの学習を大切にし、火床の火の心を紡いでいきたいものです。